

平成28年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立加納小学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体で学習への取組状況等を把握しています。また、平均正答率等、学校全体で情報を共有するとともに、分析を実施して自校の取組等の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせすることは、学校と保護者及び地域の皆様が情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、児童生徒の学力向上の取組を一層充実させることにつながると考えます。

このことを踏まえて、調査の結果をお知らせするにあたり、調査の結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 次に示す調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 平均正答率などの数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「平成28年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成28年4月19日(火)

4 調査の内容

(国語・算数・数学) 教科に関する調査	主として「知識」に関する問題 (A) ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ② 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など 【小学校国語A・算数A 各20分】 【中学校国語A・数学A 各45分】	主として「活用」に関する問題 (B) ① 知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する力 ② 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など 【小学校国語B・算数B 各40分】 【中学校国語B・数学B 各45分】
	児童生徒に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、携帯電話等の使用時間、読書時間、勉強時間の状況 など 【小学校・中学校とも20分程度】	学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査		

本校の調査結果の概況

国語	A (主として「知識」に関する問題)				B (主として「活用」に関する問題)			
	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等								
話すこと・聞くこと	1	71.0	78.8	79.2	3	40.1	49.3	51.1
書くこと	2	68.8	72.7	72.8	6	39.6	52.0	53.4
読むこと	2	74.6	77.8	78.5	3	57.5	68.1	69.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	10	62.3	69.4	71.1	0	-	-	-

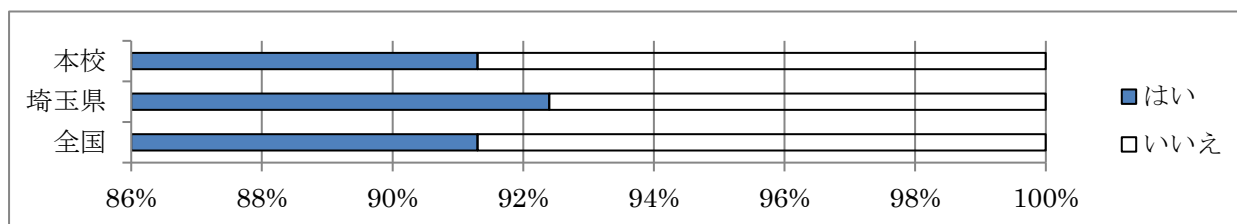
算数	A (主として「知識」に関する問題)				B (主として「活用」に関する問題)			
	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
学習指導要領の領域								
数と計算	10	73.0	78.2	80.5	6	37.9	43.2	44.4
量と測定	2	73.2	77.3	77.0	5	38.6	43.7	43.7
図形	2	74.6	76.3	78.8	3	35.7	36.1	36.3
数量関係	3	61.4	67.8	68.5	6	33.1	41.8	42.9

<児童への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

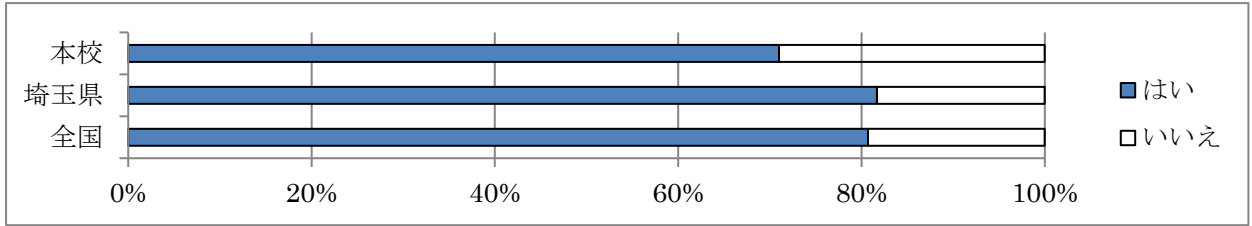
国語の勉強は大切だと思いますか。

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

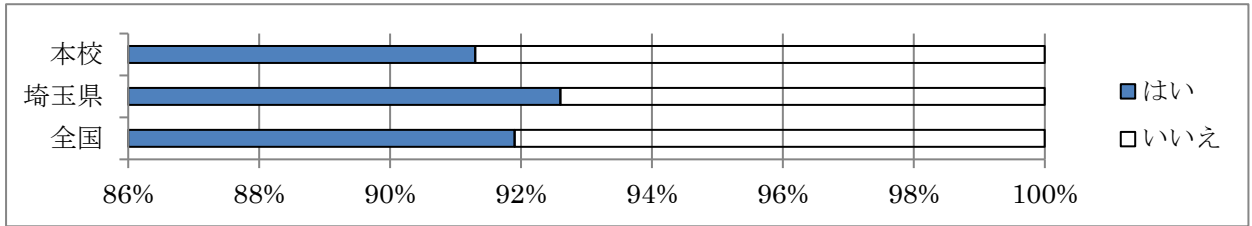
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思うわない



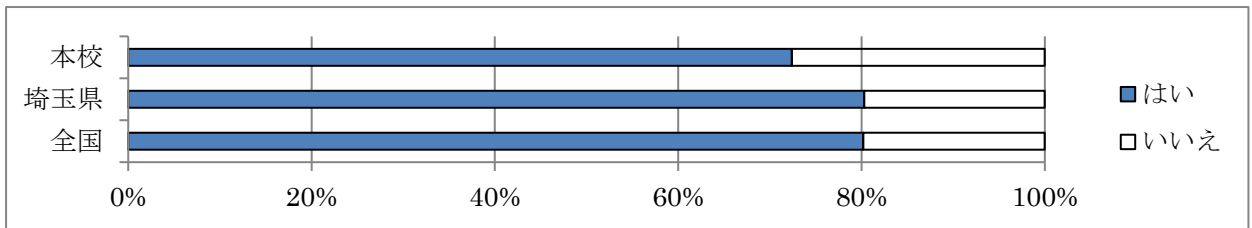
国語の授業内容はよく分かりますか。



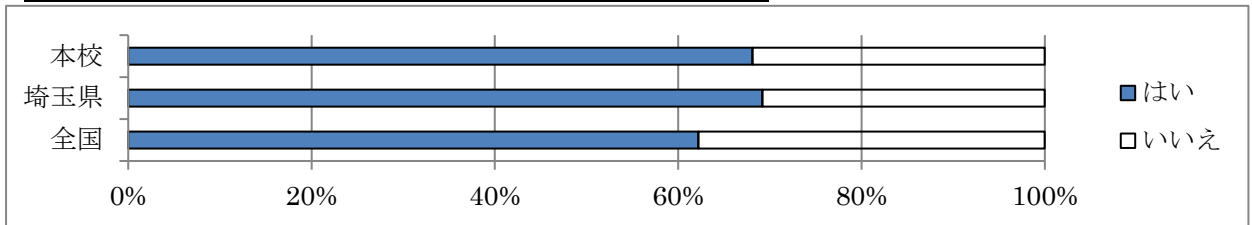
算数の勉強は大切だと思いますか。



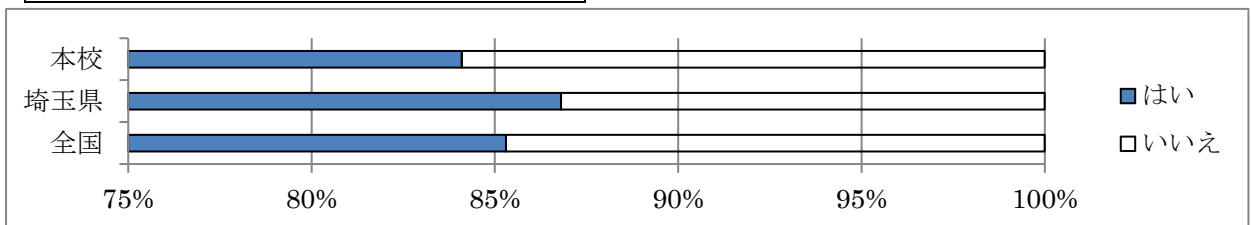
算数の授業内容はよく分かりますか。



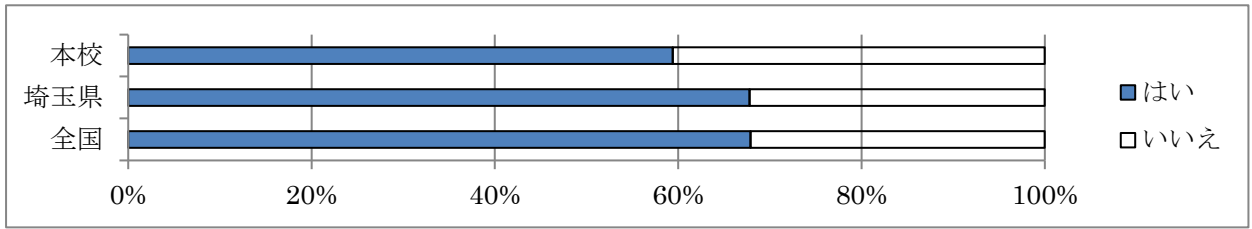
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



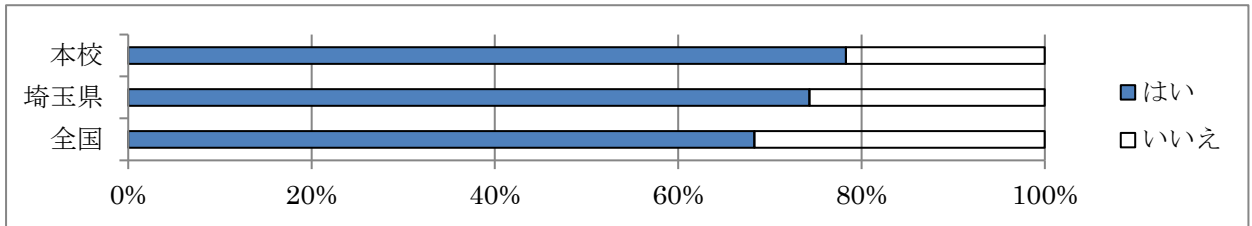
将来の夢や目標を持っていますか。



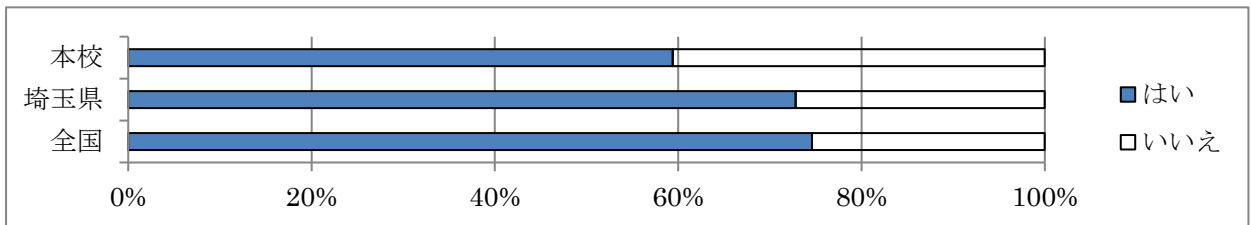
※今住んでいる地域の行事に参加していますか。



※話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広めたりすることができますか。



※読書は好きですか。



本校の調査結果の分析・考察

<国語A>

【読むこと】登場人物の人物像について複数の叙述を基にして捉えることに課題がある。
 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】ローマ字で書くこと・読むことに課題がある。

【問題（例）】

問題 ローマ字を書く。(あさって)
 正答 asatte (本校正答率: 14.5%)

*ローマ字を読む。(hyaku) ひやく (33%)

【要因】・3学年で学習したローマ字の復習が不十分であった。

- ・PC使用時のローマ字入力など学習したことを活用する指導が不十分であった。

【改善策】・4年生以上にローマ字を復習する時間を確保した。

- ・復習プリントを活用し、外国語活動の学習と関連させて指導した。
- ・インターネット検索を今後はローマ字入力で取り組ませていく。

【問題（例）】

問題 漢字を読む。(省く)
 正答 はぶく (本校正答率: 65.2%)

*音読み(貯金) ちょきん (98.6%)

【要因】・漢字練習ノートでは同じスペースで多くの漢字を書かせたいため、熟語が中心で、訓読みの文例は1つであることが多い。また語彙力に課題のある児童は「省く」という言葉そのものを知らない。

【改善策】・毎年訓読みの問題に課題があることを周知し、漢字の学習に力を入れる。
 ・書く際の送り仮名の指導も十分行うようにする。
 ・積極的に辞書を利用する機会を設ける。

<国語B>

【話すこと・聞くこと】話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することに課題がある。
 【書くこと】グラフを基に、分かったことを的確に書くことに課題がある。

【問題（例）】

問題 条件を満たして話の展開に沿った質問を書く。(本校正答率: 23.1%)
 正答例 お客さんにも大好評ということですが(条件②)地産地消についてどのように考えていらっしゃるのですか。(条件①)文字数45字(条件③)

【要因】・相手の話を受けて返すという態度・経験が不足している。
 ・複数の条件を満たして書くことができない。

【改善策】(話すこと・聞くこと)

相手の話を受けて返すという以下のような態度を意図的に育てていく。

- ① 「…ということですが、…ですか。」のように相手の話の内容を確認した上で質問する。
- ② 「…ということは、…ですか。」のように相手の話の内容を言い換えて確認するために質問する。
- ③ 「わかりました。…はどうでしょうか。」のように相手の話の内容と関係づけて質問する。

【問題（例）】

問題 グラフを基に、文中 A に入る内容として最も適切なものを、1から4までの中から選ぶ。(本校正答率: 33%)
 正答 3 (5月の結果より増え、60%をこえました。)

【要因】・グラフを基に、文章と関連づけながら、分かったことを的確に書くことに課題がある。

【改善策】

図表やグラフを基にした文を読む際のポイントを示し復習する。

- ① 何についてのグラフなのか。
- ② グラフの中のそれぞれの情報は何を表しているのか。
- ③ 考えに説得力を持たせるためには、どの言葉や数字に注目するのがよいか。
- ④ 注目する言葉や数字が何を意味するのか。

<算数A>

【数と計算】わる数が1より小さいとき、商がわられる数より大きくなることを理解することに課題がある。
 【数量関係】数直線などを用いて、基準量、比較量、割合を正しく捉えることに課題がある。

【問題（例）】

問題 $\square \div 0.8$ の商の大きさについて正しいものを選ぶ。(本校正答率: 52.2%)

正答 商は \square より大きくなる。

誤答例…商は \square より小さくなる(40.6%)

【要因】・小数のわり算はできるものの、わられる数が \square と抽象化されるとわからなくなってしまう。

・わり算では商がわられる数より常に小さく考えている。

【改善策】・復習する時間を確保した。

・授業導入時に取り組む小プリントで類題に取り組み定着を図った。

・商だけでなく積に関しても同様に \square を用いてその大小について復習し定着を図った。

【問題（例）】

問題 定員と乗っている人数の割合を百分率を用いた図に表す時、当てはまる数値を選ぶ。

(本校正答率: 44.9%)

正答 100と120

【要因】・数直線を活用する際、百分率を使う学習機会が少なく、児童が混乱した。

・「もとなる量=1(割合)=100%(百分率)」の定着が不十分であった。

【改善策】・復習する時間を確保した。

・授業導入時に取り組む小プリントで類題に取り組み定着を図った。

・割合と百分率の関係、問題で示された数値を数直線に表す過程を丁寧に確認する。

<算数B>

【図形】図形と式を関連付けて、論理的に考察し具体的な言葉で説明することに課題がある。

【量と測定】算数の問題場面で見出した式の中の数値の意味を、言葉などで説明することに課題がある。

【問題（例）】

問題 目標タイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く。(本校正答率: 2.9%)

正答 0.3や0.4という数字はハードル1台あたりに増える時間だと考えられる。

【要因】・複数ページにわたる問題提示の仕方に混乱し、「問い」が分からなくなった。

・記述できた児童もその内容が具体性・根拠を欠くもので正答にまで至らなかった。

【問題（例）】

問題 示された形を作ることを説明する式の意味を数や演算の表す内容に着目して書く。

(本校正答率: 4.3%)

正答 正答の条件①②③を満たし、 $360 \div 120$ の式の意味を記述できる。

【要因】・複数ページにわたる問題提示の仕方に混乱し、「問い」が分からなくなった。

・記述できた児童もその内容が具体性・根拠を欠くもので正答にまで至らなかった。

【改善策】(課題の要因がB問題全体を通し共通しているため)

・事象と式、図形と式を関連付けて、式や数値の意味を解釈し説明することができるように、

① 式の意味などについて児童同士で再度確認のために学び合う機会を授業の中でもつ。

② ノートに記述して整理する学習活動の充実

③ 教師の問い返しにより、論理的に式や数値の意味を記述したり説明したりする場を設ける。

④ 論理的に記述するためのポイントを指導する。

<質問紙調査から>

<p>【質問内容】</p> <p>話し合う活動（学び合い）を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができていると思いますか。（肯定的回答：78.3%）</p> <p><u>*全国を10ポイント上回る結果であった。</u></p> <p>本校では様々な授業の中で、学び合う学習に取り組んでいる。子供たちは自分の考えを伝え合うことで学習意欲を高め、思考を深め、知識を身につけているという実感があると考えられる。「考え、話し合い、学び合う学習」に取り組んだ成果が質問紙調査に出たと考える。</p>	<p>【質問内容】</p> <p>読書は好きですか。（肯定的回答：59.4%）</p> <p><u>*全国を15ポイント下回る結果であった。</u></p> <p>昨年度の質問紙調査からも浮き彫りになっている本校児童の課題である。学校図書館の充実や学校全体での読書カードや読書月間（11月）の取組など、本を手にとり、読書が好きになる実践に取り組んでも数値が上がっていなかった。現状分析の結果、よく読む児童と、まったく読まない児童の2極化が進んでいることが判明したので、まったく読まない児童が本を手取る機会を学校・家庭が連携して増やしていけるようにしていく。本年度、啓発のための学校便り特別号（読書のすすめ）を発行した。</p>
--	--

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「平成28年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会）より抜粋

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年、中学校第1・2・3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成28年4月14日（木）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数
 中学校第1学年 国語、数学
 中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと・書くこと	4	52.0	54.2	4	55.8	55.1	4	38.0	47.8
読むこと	5	49.4	46.8	9	65.9	64.4	9	64.6	67.2
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	64.8	65.0	17	63.0	66.7	17	55.6	59.8

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
数と計算	15	78.7	71.7	16	79.1	75.7	14	68.0	72.8
量と測定	5	66.7	66.4	5	65.7	65.3	7	57.3	66.0
図形	6	60.8	61.4	5	61.4	60.4	6	43.0	54.8
数量関係	4	70.1	70.7	6	61.3	60.8	5	58.6	59.2

<児童への質問紙調査> (主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本校の達成率、下段：県の達成率、 は80%以上

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年
○はじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	94.1	92.9	89.9
		92.4	94.5	94.8
	② 授業開始時刻	98.0	87.5	89.9
		92.9	95.2	95.6
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	86.3	69.6	88.4
		84.7	87.2	87.5
④ 整理整頓	88.2	78.6	88.4	
	82.8	84.6	84.7	
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	92.2	73.2	79.7
		81.3	81.8	80.8
	⑥ 返事	96.1	89.3	88.4
		88.7	89.6	89.7
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	86.3	92.9	85.5
		86.1	87.4	89.8
⑧ やさしい言葉づかい	94.1	76.8	79.7	
	84.0	84.2	83.4	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	88.2	78.6	85.5
		81.0	85.9	85.1
	⑩ 話を聞き発表する	88.2	67.9	71.0
		79.4	76.8	73.5
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	96.1	89.3	84.1
		84.3	89.2	87.1
⑫ 掃除・美化活動	94.1	87.5	73.9	
	88.2	89.6	87.5	

本校の学力向上の取組

授業における取組

1 個別指導の充実

- (1) チームティーチングや少人数指導などきめ細やかな指導をしています。
(3～6年生の算数では、常に教師2名で指導ができる体制を整えています。)
- (2) 毎時間、既習事項の振り返りや学習内容の定着を図るためのスキルアップタイムを教科の特性に合わせた形で実施しています。
- (3) ワークシートを用いた單元ごとの習熟度の確認をします。必要に応じて個別指導を実施し理解を深めるようにしています。

2 言語活動・学び合う活動の充実

- (1) 全ての教科において、ペア、グループ、クラス全体といった様々な形態で意見交流する時間を確保します。
- (2) 自らの考えや学級での学びが目に見え授業後も残るように、思考ツールを活用した授業を実践しています。

3 学びに向かう力の育成と指導法の工夫・充実

- (1) 電子黒板などのICT機器を活用した授業など、児童の疑問や探究心を湧き立たせるような教材提示や指導法の工夫を行います。
- (2) 教師による評価だけでなく、児童自身による自己評価や、児童同士による相互評価を大切にし、児童にとって見通しと振り返りのある授業を実践していきます。

授業以外の取組

1 朝の活動の充実

- (1) 算数の課題を踏まえて、算数の基礎的なプリントに週1回取り組みます。
- (2) 国語の課題を踏まえて、国語の読解力育成のワークに週1回取り組みます。
- (3) 読書の課題を踏まえて、月に1回、教師も一緒に全校読書に取り組みます。
(あわせて、2月に1回、本校図書ボランティアの方による読み聞かせを実施しています。)

2 家庭学習の習慣化

- (1) 10分×学年は家庭学習の時間を取れるよう働きかけると共に、「家庭学習の手引き」を配布し、家庭との連携に努めます。
- (2) 宿題に関する内容の精選、明確な指示、確実な点検を行います。
- (3) 家庭学習の成果を授業で生かしたり、発表したりする場面を設定して意欲を高めめます。また、継続して取り組めるよう学校での評価と働きかけを継続して行います。
- (4) 読書習慣が身につくよう、音読と並行して読書カードの取組を行います。また、学校便り特別号の発行により読書に関する情報を発信し、啓発を図ります。



かのうっ子の「確かな学力」の育成

1時間毎の授業における具体的な指導法の改善

基礎的・基本的な知識・技能の習得（反復練習・具体的指導）を

見通しと振り返り

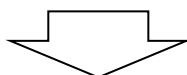
体験的・問題解決的な学習の推進

言語活動の充実

＝本校の組織的な研修による確かな学力の育成＝

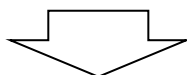
◎学校課題研究（国語科）～学ぶ意欲を高め確かな学力を育む授業の創造～
読む力を育み、学びを深め、意欲を高める指導法を研究

◎『考え、話し合い、学び合う学習』推進事業～思考ツールを活用した学び合いの創造～
基礎的・基本的な知識・技能の習得と、主体的・対話的な学習を通して、思考力・判断力・表現力や学習意欲を高める研究



課題を解決するために

- 1 わかる授業を展開するために、見通しと振り返りの充実に図り、各教科の特性に応じた授業方法について確認し、実践する。
- 2 他教科や日常の取組との関連を図り、言語活動の充実により一層高めていく。
- 3 地域の教育力を積極的に取り入れ、体験的・問題解決的な学習を推進し、学ぶ意欲を高める指導の工夫・改善を図る。
- 4 知識・技能の確実な習得のために、個の学びに応じた指導方法・指導形態を工夫する。
- 5 知識・技能の確実な習得のために、保護者と連携し、家庭学習の習慣化、スキルアップと学び方の習得を図る。
- 6 思考力・表現力等（土台となる国語の力）の向上を図るため、学校・家庭が連携し、読書活動を推進する。



具体的方策

I 指導内容・指導方法の工夫

○国語力の土台の育成

- ・国語タイム（読解ドリル・言語事項プリント等）
- ・読書習慣の確立（環境整備・読書カードの活用等）
- ・国語コーナーの充実（語彙を増やす：ことわざ等）

○読む力の育成

- ・学校課題研究を通じた読む力を育む授業実践

○書く力・言語事項の指導

- ・国語辞典の積極活用
- ・4段落構成の作文指導

国語

○基礎・基本の定着

- ・計算チャレンジ（四則計算・当該単元の復習を毎時）
- ・家庭学習の手引きの活用と習慣化（家庭との連携）

○個に応じた指導の工夫と改善

- ・少人数指導やTT、必要に応じた補習の実施

○問題を読み取る力と活用する力の育成

- ・聞かれている内容への線引き、表や線分図の活用
- ・ノート指導とICT活用によるわかる授業

算数

全教科領域を通して

○考え、話し合い、学び合う学習の実践

- ・学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力等を育成（学期1回以上の思考ツールの活用・指導と評価の一体化）

○言語活動を意図的・継続的に取り入れた授業実践

- ・「伝え合う」「書く」活動を積極的に取り入れ、自分の考え等を表現させ、見届け、認める。（理由・根拠を明確に）
- ・読書環境の整備による学習意欲の向上（並行読書を各学年で進められるよう図書室に関連図書コーナーを設置）

<p style="text-align: center;">学習環境の整備</p> <p>○児童にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の積み重ね、児童の頑張りが見える学習掲示 ・学習のユニバーサルデザイン（簡潔・視覚にも訴える指示） ・教室の整理整頓、学習規律の徹底 ・学校図書館、PCルームの活用の活性化を図る。 <p>○教師にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用による教材の共有化により子供と向き合う時間の捻出を図る。 	<p style="text-align: center;">学校生活の充実</p> <p>○朝の活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝マラソン、元気タイム ・算数・国語タイム等の計画的な実践 <p>○児童会活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体的な取組 ・中学校との連携あいさつ運動 <p>○規律ある態度の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・礼に始まり礼に終わる。・もくもく清掃活動の習慣化 <p>○教育相談体制の充実</p> <p>○学校行事を通した一体感・達成感を味わわせる取組</p>
---	---

II 教育課程への対応の工夫

- 言語活動を充実させる「学び合いマーク」を取り入れた年間指導計画の作成
 - ・実践を通して、加除・修正し、実態に応じた学力を向上させる教育課程の編成
- 学校課題研究（国語）・考え、話し合い、学び合う学習（学び合い）の取組
 - ・児童の言語活動のより一層の充実 ・思考ツールの活用 ・指導と評価の一体化
- 各教科間の関連を考慮した単元配当の工夫
 - ・調べ方やまとめ方、表現する力を一層効果的に育むため、単元配当を工夫する。
- 地域の教育力・家庭の協力を積極的に取り込む教育課程の編成
 - ・継続的に活用できるよう、地域人材活用ファイルを作成し、年間指導計画上にも印をつける。

III 学習評価の工夫

- 年間指導計画に基づいた評価規準の見直しと改善、全職員による共通理解
- 諸調査結果の分析・考察による児童の実態把握を、指導と評価の改善に生かす。
 - ・教務による第1次分析・考察 → 学年担任による第2次分析・考察 → 全職員での共有
- 評価計画の作成（形成的評価・個人内評価を行い、個に応じた指導を充実させる。）
- 思考ツールの活用による学びの可視化を評価に生かす。（本校の研修実践を通して）

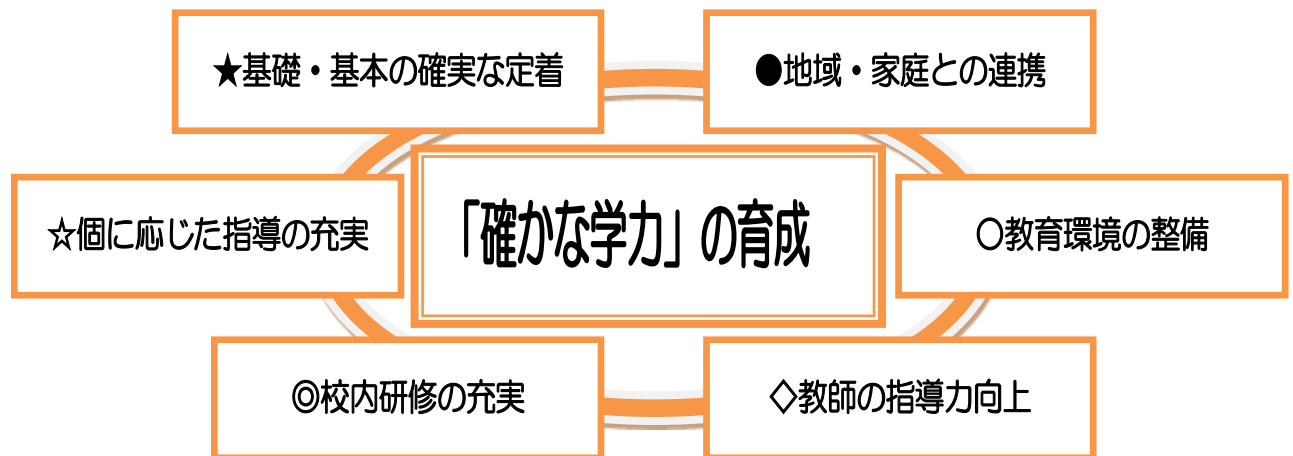
IV 保護者・地域との連携を通して

○全国・埼玉県学力・学習状況調査に関する情報や検証結果等を公表し、学校の学力向上への取組を知らせ、保護者・地域への啓発と協力の要請を行う。

<p style="text-align: center;">保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ○懇談会、個人懇談会等の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・個々の学力についての積極的情報交換 ○家庭学習の充実（家庭学習の手引きの活用） ○規則正しい生活（早寝・早起き・朝ご飯、決まった時間の学習） ○学習ボランティアの依頼（家庭科、生活、総合等） ○様々な教育場面での学校公開 	<p style="text-align: center;">地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校応援団による効果的な学習支援 <ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティア（本の読み聞かせ）の活用 ・学習ボランティアの活用 ・環境整備活動への協力 ○ゲストティーチャーの活用 ○地域教材の開発・活用 ○児童を見守る体制 ○学校行事等への協力 ○小中連携の推進 ○桶川高校生の学習ボランティア
---	--

- 中長期的な学力向上を見据えて**
- ★PDCAサイクルの活用
 - ・学力向上に関する諸取組に関して成果と課題を検討し、その後の学習指導の改善に生かすサイクルを全職員で確立する。
 - ★教師の授業力の向上
 - ・授業公開週間の設定（教師の間で互いの授業を見合い授業力向上を図る取組）・組織的研修（学校課題&匠の技伝承研修）

確かな学力を身につける「6つの視点」



(1) 基礎・基本の確実な定着 (★)

- ア 各教科における言語活動の推進
- イ 業前活動の充実 (算数・国語・元気・読書タイム・読み聞かせ)
- ウ 各教科におけるスキルアップタイム (既習事項の定着) 実施

(2) 個に応じた指導の充実 (☆)

- ア 少人数指導・TT指導の効果的実践 (算数科・理科)
- イ 教育指導補助員の効果的配置・実践 (算数科・書写・図画工作科・音楽・体育科等)

(3) 校内研修の充実 (◎)

- ア 指導方法の工夫・改善 (加えて、匠の技研修会の実施)
- イ 国語科の授業研究会を計画的に実施

(4) 地域・家庭との連携 (●)

- ア 家庭学習 (手引き・音読・読書) の啓発と協力依頼による家庭学習の習慣化
- イ 学力・学習状況調査の結果・考察の公表と、授業公開・懇談会等による連携
- ウ 地域の人材を活用した体験的学習の実施と地域人材ファイルの作成

(5) 教育環境の整備 (○)

- ア 各学級の学習コーナー・各学年の学習コーナー
「だいおうまつくんの国語教室」の設置
- イ 教材備品の整備・補充・廃棄による効果的な活用を促す教材室

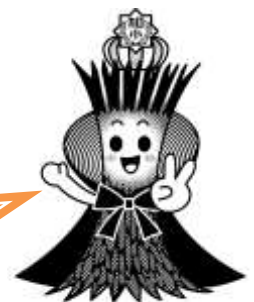
(6) 教師の指導力向上 (◇)

- ア 年2回の授業公開週間 (自己申告シート・教員同士が見合い高める)
- イ 学校課題研修授業研究会・示範授業の実施
- ウ 実技伝達研修会・匠の技研修会の実施

確かな学力を身につける授業「4つのキーワード」

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を土台に
- (2) 見通しと振り返りのある授業
- (3) 体験的・問題解決的な学習の推進
- (4) 言語活動の充実

教師の意識の中に
『根拠』や『理由』!



各教科・領域の手立て (★基礎基本の確実な定着☆個に応じた指導の充実◎校内研修の充実●地域・家庭との連携◇教育環境の整備◇教師の指導力向上)

	【課題】 ・ 手立て等
国 語	<p>【書くこと・読むこと（説明的文章）・要旨・段落の相互関係・文法・語彙】</p> <p>●読書と音読の習慣化。 ◇自分の考えを文章化する活動・発表する機会を必ず設ける。 ★書く機会を多くもたせる。（日記・段落構成の明確な作文・本の紹介：家読コンクール全員参加・スピーチ原稿）</p>
社 会	<p>【基礎・基本となる知識を身につける・資料や情報を的確にとらえ、表現・考察する】</p> <p>★基礎・基本となる知識を増やすスキルアップタイム（既習・地図記号・都道府県・世界地図・歴史人物等） ★資料の見方の確実な定着。 ◇体験的な学習、資料から読み取り考察する学習を充実させ、発表する場を設ける。</p>
算 数	<p>【公式を活用して解く・二つ以上の段階を経て求める問題・図形・割合・概数・考え方の説明】</p> <p>◎問題内容の把握を深める線引きの徹底。関連キーワードを用い、見通しを持たせた授業展開。 ★計算チャレンジ（既習事項の定着・四則計算）の継続実施。問題提示の工夫。 ◎学び合いの場を取り入れ思考の深まりのある授業実践（昨年度までの課題研修を引き継ぐ）。</p>
理 科	<p>【予想と関連づけながら考察・科学的な言葉や概念を活用して結果をまとめる・日常生活との結びつき】</p> <p>★観察、実験等の体験的学習をもとにした言語活動を充実させる。（結果と関連させ、根拠を明らかにして表現する） ◇学習内容が日常生活のどのような場面に生かされているのかを取り上げ一般化する。★スキルアップタイム ◎条件や実験結果を比較検討しながら、学び合いを通してまとめを練り上げ全員で共有する授業実践。</p>
体 育	<p>【反復横跳び・確実な技能の習得と運動の習慣化・器械運動】</p> <p>◇運動の系統性を全職員で共通理解し、当該学年で身につけるべき技能習得させる授業実践。 ★加納っ子体操、全力走の継続実施。 ◇技能指導を十分に行い、動きのポイントを押さえた上での言語活動を充実させる。</p>
生 活	<p>☆児童の思いや願いを生かし、気づきの質を高める授業展開。 ◎簡単な思考ツールを用いた学び合いを導入する。</p>
音 楽	<p>★用語・楽譜の読み、リズム等の基礎的な知識をクイズ形式で出題し、定着を図る。 ○記号、楽器等の掲示をする。 ◇新しい楽曲に取り組む際の導入を工夫する。 ☆個別指導の時間を確保する。 ★演奏を聴き合い、よさを伝え合い、表現力を高める。</p>
図 画 工 作	<p>★クロッキータイムの実施。（技能の確実な定着） ☆自分の思いを元にイメージや発想を広げられるようなワークシートの工夫をする。 ○本時のめあてをわかるように示す。 ☆発想・構想を豊かに引き出す声かけをする。 ◇用具の使い方を丁寧に指導する。校内実技講習による指導力向上。</p>
家 庭	<p>★栄養教諭による食育の継続的指導。 ●家庭の協力を得て、実践を通し家庭での役割を自覚させる。 ★実習を通して、「段取り能力」を身につける。 ☆調理・製作の過程を掲示し、順序を明確にする。</p>
外国語	<p>○ICTの活用により、様々な感覚を活用して、外国語を身近なコミュニケーションに感じられるようにする。 ◇動作化やICTの活用により、日本と外国との生活、習慣、行事などの共通点や相違点に気づくようにする。 ★アルファベットでの英語表記を積極的に導入・指導し、音声に加え文字による外国語の感覚を養う。 ◎小中連携を積極的に行い、小学校段階で身につけるべき内容を教師間で共通理解・共通指導する。</p>
総 合	<p>◇調べる活動・まとめる活動・伝える活動を充実させる。【探求活動の一層の充実】 ◇相手意識をもち、活動したことを生活に生かしていく。【課題意識の明確化と実践意欲の高揚】</p>

	○ICTの活用と情報モラルの育成。
道徳	◇物事を多面的・多角的に考え、自分の生き方について考えを深める。 ☆思考ツールの活用により考えを可視化し、指導と評価を充実させる。 ◎相対した価値についての話し合い、考えあう道徳授業の実践。
学級活動	◇自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動。 ★学級会ノートを活用し、自分の意見を事前に考える。 ◎友達の意見を自分の考えと比べながら聞き、よりよい意見を考え出す力をつけるとともに、折り合いをつける力を育成する。

*あわせてICTと学校図書館の効果的活用を図り、児童の確かな学力を育成していく。

ICTの活用	・教材の共有化	○教材・プリント等のデータを共有。 →教材研究や子供と向き合う時間の有効活用。 →効果的な指導方法の継承。
	・学習評価の電子化	○通知票・指導要録の電子化。 →教材研究や子供と向き合う時間の有効活用。 →指導と評価の一体化。
	・ICT支援員の活用	○研修の計画実施によりICT活用スキルを向上させる。 →全教職員ができることを増やし学習効果を高める。
学校図書館の活用	・環境整備と家庭への啓発	○調べ学習で活用できる蔵書を増やす。 →辞書や本を手にする機会を増やすよう啓発。 (ネットによる調べ学習の利便性と同時に難しさ・著作権に関しても子供たちへ指導する。) ○司書教諭を中心とした図書館環境の整備 →貸出し冊数の増加による読書習慣の定着。
	★年間15冊の貸し出しを目指し、日々の読書習慣確立に向けた働きかけを充実させる。	
	・「本」で調べる学習の充実	○学習内容と関連した蔵書があるゾーンを明示。 →本を探す時間の短縮による学習効率の向上。
	・並行読書ゾーンの設置	○国語教材の並行読書の働きかけ。 →発展学習の働きかけと読書習慣の定着。

保護者・地域の皆様へ

☆読書の好きな児童を育成したいと考えております。ご家庭でも児童への働きかけをお願いします。(「うちどく」コンクールの取組などを機に、一緒に本を手にする機会が持てたら最高です。)

☆家庭学習の習慣を身につけさせたいと考えております。まずは、学習する環境を整え(テレビを消す・身の回りの整頓・姿勢など)られるようご協力いただくと嬉しいです。学校においても学習の見届けを行います。ご家庭でも学習する姿を見守ったり、ノート等を点検していただけたらすると効果がさらに高まります。

☆「時」を守り、「場」を清め、「礼」を正す。加納中学校と連携し、9年間で一貫した生活指導を心掛けておりますので「かのうっ子のやくそく」を守らせてください。ご家庭においても参考にさせていただける内容だと思っております。